埼玉純真短期大学研究論文集　第 10 号　PP.111-114

バリ島・幼児教育研修における活動

加　藤　房　江
（こども学科　専任講師）

バリ島幼児教育研修に向けて，アヨクラブのメンバーと研修に意欲的な学生10名にて，事前に交流の準備を進めた。今回は，学校法人カシ・サヤン幼稚園・小学校やサラスワティー外国語大学附属幼稚園，インターナショナルスクール，ガネーシャ大学附属幼稚園の４園の訪問を行なった。日本で計画立案した保育内容を学生達が実践する機会を得た。

学校法人カシ・サヤン幼稚園・小学校との交流

カシ・サヤン幼稚園・小学校は，7：30～10：30までの保育時間である。私たちが訪問したときには，歓迎のセレモニーで出迎えてくれた。はじめに，整列した園児達の前で，女児２名のバリダンス，男児２名のバリダンスと民俗衣装やメイクで身を包み，小さいながらも指先や目力などの細かいところにも表現力豊かに歓迎の舞いを披露してくれた。

また，ゆかた姿の子ども達が，日本の民謡である「炭坑節」を披露してくれた。我々日本人が忘れている日本の踊りを踊る姿に，歓迎の意味が込められていることがひしひしと感じられた。

先生方も伝統的なバリダンスの他に，「炭坑節」「花笠音頭」「ドレミ体操」と力強く，かろやかに歓迎の舞いを披露してくれた。

歓迎のセレモニー

２年前にこちらのカシ・サヤン幼稚園・小学校に埼玉純真の教員が訪れ，実際に子ども達と交流し，保育実践を経験させていただいている。その経験をもとに，学生達と相談しながら，どんな遊びをして交流しようか準備を進めてきた。事前に手遊び，パネルシアター，ゲーム，ペープサート，リズムなどの計画を立案し，３グループに分かれて，実践を行なった。

カシ・サヤン幼稚園の４歳児クラスでは，自己紹介や手遊びでの導入から，パネルシアター「ピコピコテレパシー」のクイズに子ども達からジェスチャーで答えてもらった。次に，フレーツバスケットのゲームでは，ルールの説明をサラスワティー外国語大学の学生にしてもらい，一つ一つのフルーツの名前を確認しながら，子ども達がゲームに参加できるよう援助していった。繰り返しゲームを行なうなかで，子ども達自身の言葉で，フルーツの名前が言えて，ゲームを楽しむ様子が見られた。

５歳児クラスでは，自己紹介や「頭・肩・ひざ・ポン」の手遊びでの導入から，ペープサートの「ないたないた・とんだとんだ」のゲームを披露した。最緒は，「貨物列車シュッシュッシュッ」のゲームで列になり，大きい円で「チューリップ」の歌を全員でうたい交流を深めた。ジェスチャーや音などを交え，学生の積極的なかかわり，サラスワティー外国語大学の学生の通訳で，楽しい活動となった。

小学校クラスでは，ボイスパーカッションを行なった。動物たちのそれぞれの鳴き方では，日本とバリ島でそれぞれ違っていることに驚き，その違いを確認しながら音遊びを楽しむことができた。言葉の壁はあれども，楽しいことは一緒であるという貴重な体験ができた。

４歳児クラス

５歳児クラス

小学校クラス

カシ・サヤンの子ども達や先生と･･･

サラスワティー外国語大学と附属幼稚園

この日の交流に備え，早朝から着付けを行い，ゆかた姿にてサラスワティー外国語大学と附属幼稚園の訪問をした。珍しいゆかた姿に驚かれながら，私たちが到着すると附属幼稚園や大学両方とも歓迎のセレ

モニーのバリダンスで迎えてくれた。附属幼稚園では，私たちも「むすんでひらいて」の手遊びを全員で行なえるようゆっくりの身振りで歌をうたい，子ども達もそれに応えるよう一生懸命真似ている姿が印象的だった。その後，先生方に案内していただき，幼稚園の保育中の様子も見学させていただいた。

サラスワティー外国語大学の日本語を学んでいる学生さんと交流会では,「はじまるよ」の手遊びを行い，日本で練習してきた日本舞踊の「さくらさくら」を披露した。短い練習時間であったが, 日本の雅な曲にのって, しなやかな動きが披露できた。その後は, 純真短大で学んだ「旅立ちの日に」をパートに分かれてのコーラスを,「世界中に子ども達」は手話を交えて歌を披露した。日本舞踊以外のプログラムは，もっとたくさんの日本についての文化を知ってもらおうと，学生の得意な演目を組み込んだものである。普段の学生生活で培った内容が自然に表現できたパフォーマンスとなった。

サラスワティー大学附属幼稚園の子ども達と

日本舞踊「さくらさくら」を披露

バリの幼児教育について

バリ島で，いくつかの幼稚園を訪問させていただく中で，共通している保育内容は，遊びやお絵かきなどの時間もあるが，算数・英語・インドネシア語のほかに宗教をとても大切にしており，バリダンスを小さいころから取り入れている。バリ島では，宗教を大切にし，家族・親族を大切にしている。バリ島での主な仕事は，年配の方は農業，若い世代は，観光産業である。そして，伝統芸能に誇りをもっているということもあるが，観光産業としてもバリダンスは欠かせないものになっているので，小さい頃から習得し，誰でも難しい伝統的な動きができるようになっているのだと感じた。また，観光産業で欠かせないのは，外国語であり，インドネシア語やバリ語の他に，英語や日本語など多言語でのコミュニケーションが必要な環境にある。それに加え, バリ島も学歴社会であり, 経済的に余裕のある方は, インターナショナルスクールに入学させ，多くの言語に触れられる教育環境を選択している。

インターナショナルスクール・タマンダマスクールでは，普段の生活は，すべて英語で行い，その他は，インドネシア語・フランス語・日本語・中国語など外国語を遊びや体の感覚を通して，身に付けていくようにしている。設備も充実しており, それぞれの国の宗教･文化についての行事を保護者と経験することで，大切にしていく教育方針であるとのことであった。年齢ことのクラスは，カラフルに子ども達の作品が飾られていたり，特に多くのクラスの壁に「Occupation」文字があり，小さいうちから将来の職業について意識できるような教育であることを感じた。

子ども達の作品

クラスの様子

クラスのドアには，子ども達の名前が

将来の仕事は・・・

バリの幼稚園の保育時間は午前中であり，3歳児からの入園である。サラスワティー外国語大学の先生に，バリの幼稚園・保育園事情を伺うと，午前中の保育時間が終了すると迎えに行き，おばあちゃん達に預けているなど，家族で助け合いながら子育てを行なっているのが一般的である。保育園は数も少なく，あまり信頼をおいているわけではないので利用する方は少ないとのことである。

日本の保育園事情の良い面や問題点などを伝えると子育て環境が整っている部分に驚いていた。しかし，バリ島は，まだまだ大家族での暮しが一般的で，子育てにとって，人間関係が豊かに育つ環境におかれている良い部分も多いと感じた。